

## 旅の楽しみ

松浦 俊博

五月下旬に塩原温泉に一泊旅行をした。昨年に続き今年も、孝行娘が両親に旅館一泊をプレゼントしてくれた。行き先は国内の多くの温泉旅館から選べるシステムである。疲れないで行けて、温泉でゆっくりできる場所ということで妻が決めてくれた。

那須塩原駅は池袋から在来線で二時間四〇分ほど、田植えの終わった田圃を見ながら到着する。駅前から旅館のバスで四〇分くらい走り、山の中に入る。山の一部を切り開いて溪流のそばに建てた旅館である。新緑の木立に囲まれ、溪流の少しうるさい水音と鳥たちの鳴き声のなかで、露天風呂やベランダの檜風呂に入ってボーとリラックスした時間を過ごせた。

私は、旅行の計画を立てるのが面倒で苦手。学生の頃は夏になると一週間ほどのミニ旅をしていたが、会社に入ってからのはばったり止めた。結婚してからは妻が計画して、その後<sup>うしろ</sup>についていくのが好きになる。若いころは、短時間でいろいろな所を巡る詰込み計画になり、おいしいものを食べなければならないような気がしていた。

子供たちが中学に入ると、学校のクラブ活動などが多くなったため、家族そろっての旅行はほとんどなくなった。高校生になると、親は動けるうちに海外旅行に行こうということになる。拠点を一か所に定めて、電車やバスでその周りの観光地を訪れるパターンだ。最初の頃は詰め込んだスケジュールだったが、四〇才代後半に方針を変えて、ゆっくりと観光するようになった。行き先については、当初は若いころ過ごしたイギリスに執着していたが、ドイツに代わり、最近はいタリアだ。コロナ蔓延から中断していたが、今年から再開しようと思う。

国内の旅の楽しみは、日常と違う時間の過ごし方を味わうことで、広々とした場所で木立に囲まれゆっくり入浴。これさえあれば良い。一方、海外の旅は、街や教会などを巡って文化や歴史に浸り、朝はホテルのおばさんに挨拶してカプチーノを入れてもらう。こんなささやかな満足感が心地よい。